

暖房器具での『低温やけど』に注意してください

ゆたんぽで低温やけど

事例

ゆたんぽを付属の袋と別に購入した袋で二重に包んで足元に置いて就寝したところ、ふくらはぎに低温やけどを負った。(平成18年 愛知県)

原因

就寝中にゆたんぽに接触してしまい、そのまま長時間接触したため、低温やけどを負ったものです。

低温やけどとは？

比較的低い温度(44℃~50℃)でも長時間にわたって皮膚の同じところに触れていると筋肉などが壊死するために「低温やけど」をおこします。44℃では3~4時間以上、46℃では30分~1時間、50℃では2~3分で「低温やけど」になるといわれています。

(出典：山田幸生「製品と安全第72号」
低温やけどについて、製品安全協会)

電気あんかで低温やけど

事例

電気あんかを「強」に設定し、両足に触れないように置いていたが、目覚めると両ふくらはぎの下に電気あんかがあり、重傷の低温やけどを負った。(平成18年 福岡県)

原因

睡眠薬を服用していたために熟睡し、気づかないうちに電気あんかに触れてしまったために低温やけどを負ったものです。

低温やけどの特徴とは？

「低温やけど」は、皮膚の表皮部分の変化が少なく痛みも弱いですが、実際は皮膚の深い部分にやけどをおこして皮下組織が壊れたりして、植皮手術が必要になることがあります。早めに専門医の診察を受けてください。



「低温やけど」は、ゆたんぽや電気あんかなどの暖房器具のほか、使いすて式のカイロなどでも発生します。同じ部位を長時間温めないでください。また、違和感や熱いと感じたら直ちに使用を中止してください。

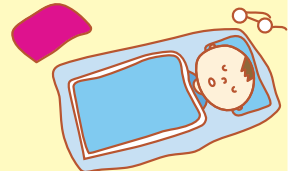
ゆたんぽや電気あんかは、厚手のタオルや専用のカバーなどで包んでも低温やけどはおこります。就寝前にふとんの中に入れて、温まったらゆたんぽを

ふとんから出し、電気あんかはスイッチを切ってください。

使いすて式のカイロや靴・靴下用カイロは、目的の部位以外では使用しないでください。

また、靴・靴下用カイロは開封後、放置すると温度が高くなるので注意してください。

取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。



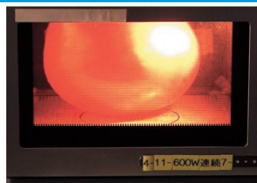
電子レンジ加熱式
ゆたんぽが破裂

事例

電子レンジ加熱式のゆたんぽを加熱していたところ、ゆたんぽがふくらんできたため、あわてて電子レンジの扉を開けた際に、ゆたんぽが破裂して内容物が飛び散り、顔面にやけどを負った。(平成21年3月 熊本県)

原因

「オート加熱」機能を禁止する表示があることを知っていましたが、誤って「オート加熱」を使用したため、規定時間を超えてしまいました。過熱状態になったゆたんぽの樹脂フィルム製の袋の内圧が高まって破損し、内容物が飛散したものです。



加熱開始後6分でふくらみ始めたゆたんぽ(本体表示は600Wで6分)再現実験



取り扱い表示どおりのレンジ出力及び加熱時間は必ず守ってください。

袋が膨張、あるいは内容物が漏れ出した場合は、電子レンジのスイッチを切り、十分に時間をかけて冷却したことを確認してから扉を開けてください。

金属製のゆたんぽが破裂

事例

金属製ゆたんぽを電磁調理器で温めていたところ破裂し、電磁調理器などが破損した。(平成20年1月 福井県)

原因

口金を外さずにゆたんぽを温めたため、内圧の上昇に耐えられなくなったゆたんぽが破裂するとともに、周囲の電磁調理器などが破損したものです。なお、製品本体及び取扱説明書には、「直接温める時は必ず口金を外す」旨が表示されていました。



実際に破裂した事故品の金属製ゆたんぽ



ガスこんろや電磁調理器で直接加熱するタイプの金属製ゆたんぽを加熱する際は、必ず口金(キャップ)を外してください。

⚠️ このマークは、取り扱いを誤った場合、重篤な被害を負うことが予想されますので注意をお願いするものです。